

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第3週 (1/12-1/18) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		3週	2週	1週	52週
小児科		18	17	17	16
眼科		5	4	5	4
インフルエンザ		28	27	26	25
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 1/5-1/11 2週
		注意報	1/12-1/18	1/5-1/11	12/29-1/4	12/22-12/28	
			3週	2週	1週	52週	
小児科	RSウイルス感染症		5 0.28	11 0.65	1 0.06	6 0.38	62 0.48
	咽頭結膜熱		2 0.11	7 0.41	1 0.06	3 0.19	38 0.29
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		23 1.28	34 2.00	5 0.29	41 2.56	193 1.48
	感染性胃腸炎		158 8.78	141 8.29	20 1.18	166 10.38	1,261 9.70
	水痘		2 0.11	14 0.82	3 0.18	4 0.25	118 0.91
	手足口病		0 0.00	1 0.06	0 0.00	7 0.44	25 0.19
	伝染性紅斑		8 0.44	2 0.12	0 0.00	2 0.13	85 0.65
	突発性発しん		14 0.78	6 0.35	1 0.06	7 0.44	47 0.36
	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	3 0.02
流行性耳下腺炎		7 0.39	3 0.18	0 0.00	1 0.06	62 0.48	
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○★	782 27.93	696 25.78	105 4.04	777 31.08	6,870 32.71
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	4 1.00	2 0.40	0 0.00	29 0.88
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	2 2.00	0 0.00	1 1.00	2 0.22
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	IGRA検査等	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱
結核	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・結核2件(3)、急性脳炎1件(1)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第3週のコメント

<インフルエンザ>前週より増加し27.93となった。流行発生警報継続基準値を上回っている。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの2015年第2週現在は、前週より増加し、流行発生警報開始基準値を上回りました。過去8年間の同時期と比べると2010年のパンデミックも上回り最多となっています。都道府県別では、宮崎県、沖縄県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じになっています。千葉市の2015年第3週は、前週より増加し27.93となり、依然として流行発生警報継続基準値(10.0/定点)を上回っています。区別の発生状況では、中央区(41.2/定点)で流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代あたりでは7歳で最も多く報告されました。今シーズンである2014年第36週から2015年第3週現在の累積報告数(n=3818)によると、性別では男性が49.0%(1869名)、女性が51.0%(1949名)で、年齢階級別の1年代あたりでは7歳(7.8%:298名)、8歳(7.6%:289名)、9歳(6.7%:254名)の順に多くなっており、全体に占める20歳未満の割合は80.3%(3065名)、10歳未満の割合は53.7%(2049名)となっています。

今シーズンの型別迅速診断結果の累積は、A型が84.2%で、A型が8割以上を占めています。流行シーズンであることから、感染防止の注意が必要です。

予防として、家庭内のみならず、外出先においてもこまめに手を洗うなど基本的な予防の励行のほか、十分な栄養と睡眠をとるなど普段から免疫力を高めておくことも大事です。発症した場合は、周囲へ感染を広げないよう、無理に学校や職場へ出ることを控え、早めに受診してください。また、マスクを着用する等の咳エチケットを守ることが重要です。

<咳エチケット>

- 咳・くしゃみが出たら、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。マスクをもっていない場合は、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけて1m以上離れましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨てましょう。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

